

令和8(2026)年度 病害虫発生予報 第2号

令和8(2026)年5月25日
栃木県農業総合研究センター
環境技術指導部

予想期間：5月中旬～6月中旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 水稲 縞葉枯病(ヒメトビウンカ媒介)

- (1) 発生予想 発生量：やや少ない
- (2) 根拠
 - ・今年5月の大麦でのヒメトビウンカの発生量はやや少ない(ほ場率：平年並、密度：やや少ない)(-)。
 - ・昨年11月のウンカ類の越冬前幼虫の保毒虫率は平年並(±)。
 - ・向こう1か月の気温は高い(+)、降水量は多い(-)
- (3) 対策
 - ・昨年発生が多かった地域では、本田期防除を実施する。
- (4) 備考
 - ・[令和7\(2025\)年度植物防疫ニュース No.14](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

2 麦類 赤かび病

- (1) 発生予想 発生量：平年並
- (2) 根拠
 - ・現在の発生量は少ない(ほ場率：少ない、株率：少ない)(-)。
 - ・向こう1か月の気温は高い(+)、降水量は多い(+)、日照時間は平年並か少ない(±～+)見込み。
- (3) 対策
 - ・開花・出穂期での発生がない場合でも、不稔粒発生や曇雨天などによって登熟期後半に多発することがある。ほ場をよく確認し、収穫前日数に注意して追加防除を行う。
- (4) 備考
 - ・[令和8\(2026\)年度植物防疫ニュース No.1](#)、[令和8\(2026\)年度病害虫発生予察注意報 第1号](#)を当センターHPに掲載中。

3 トマト 黄化葉巻病(TYLCV)、黄化病(ToCV)(コナジラミ類媒介)

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根拠
 - ・現在の発生量は多い(ほ場率：多い、株率：多い)(+)
 - ・向こう1か月の気温は高い(+)、日照時間は平年並か少ない(±～-)見込み。
- (3) 対策
 - ・コナジラミ類の侵入を防ぐため、ハウスの開口部(出入り口、側窓、天窗)に0.4mm目合以下のネットを張り、特に出入り口は二重にする。
 - ・黄色粘着板を設置し、コナジラミ類の早期発見に努める。
 - ・黄化葉巻病の耐病性品種であっても、本病に感染すると伝染源となるため、感受性品種と同様に適切な防除を行う。
 - ・発病株は見つけ次第抜き取り、土中に埋設するか、ポリ袋などで密封し枯死させてから処分する。
 - ・化学農薬に対する感受性低下が起りやすいため、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- (4) 備考

- ・ [防除のポイント No. 22](#)、[タバココナジラミ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHP に掲載中。

4 きゅうり べと病

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根拠
 - ・現在の発生量はやや少ない（ほ場率：やや少ない、株率：やや少ない）（－）
 - ・向こう1か月の気温は高い（＋）、降水量は多い（＋）、日照時間は平年並か少ない（±～＋）見込み。
- (3) 対策
 - ・多湿条件で多発するので、適正なかん水と換気を行う。
 - ・草勢低下は発生を助長させるので、適正な肥培管理を行う。
 - ・予防を主体にホライズンドライフロアブル（F:27、11）等を散布する。
- (4) 備考
 - ・ [キュウリべと病薬剤感受性検定結果](#)を当センターHP に掲載中。

5 果樹 果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根拠
 - ・現在の発生量は平年並（フェロモントラップ 発生量：平年並、発生時期：早い）（±）。
 - ・今年2月の果樹カメムシ類の越冬成虫の発生量は昨年より多い（＋）。
 - ・向こう1か月の気温は高い（＋）、降水量は多い（－）。
- (3) 対策
 - ・多目的防災網の設置園では、速やかに展張し、園全体を隙間無く被覆する（網の目合いは4mm以下が望ましい）。
 - ・果樹カメムシ類の飛来状況は地域やほ場によって異なるため、園地を定期的に巡回し、飛来状況の確認を徹底する。特に、山林に隣接する園地や過去に被害が多発した園地では、より注意深い観察が必要である。
- (4) 備考
 - ・気温及び湿度の高い日は夜間の飛来量が多い傾向があるので注意する。
 - ・ [植物防疫ニュース No. 15](#)、[令和8（2026）年度病害虫発生予察注意報第2号](#)、[チャバネアオカメムシの薬剤感受性検定結果](#)、[フェロモントラップ調査結果](#)を当センターHP に掲載中。

6 なし ナシヒメシンクイ

- (1) 発生予想 発生量：やや多い 発生時期：早い
- (2) 根拠
 - ・現在の発生量はやや多い（フェロモントラップ 発生量：やや多い、発生時期：早い）（±）。
 - ・向こう1か月の気温は高い（＋）、降水量は多い（－）見込み。
- (3) 対策
 - ・被害果は見つけしだい取り除き適切に処分する。
 - ・交信攪乱用フェロモン剤を設置する。
 - ・卵及び食入前のふ化幼虫を対象に薬剤散布を行うと効果が高い。
 - ・ [フェロモントラップ調査](#)の誘殺ピークを参考に、薬剤散布時期を検討する。第二世代幼虫は第一世代成虫の誘殺ピークの7～9日後が目安。

7 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現況	発生予想	作物名	病害虫名	現況	発生予想
水稲	ニカメイガ	多	多	なし	黒星病	平年並	平年並
トマト	葉かび病	少	平年並		アブラムシ類	やや少	やや少
	うどんこ病	平年並	少	きく	ハダニ類	やや少	やや少
きゅうり	うどんこ病	少	少				

○ 今後の病害虫対策

(1) 栽培終了時の防除対策

- ・ トマト、きゅうり、いちご等の施設栽培では、栽培終了時にハウスの密閉蒸し込みを行うなど、施設内の害虫を野外へ「出さない」対策を徹底しましょう。特に、コナジラミ類はトマト黄化葉巻病（TYLCV：タバココナジラミ）やトマト黄化病（ToCV：タバココナジラミ、オンシツコナジラミ）を媒介し、ミナミキイロアザミウマはキュウリ黄化えそ病（MYSV）を媒介するため、注意が必要です。
- ・ また、施設栽培作物の栽培終了後には、次作に向けて土壌消毒を実施しましょう。植物残さ内の病原菌は消毒されにくいいため、ほ場から植物残さを持ち出す等、適切に処分しましょう。また、効果的な土壌消毒の実施のためには、十分な耕起、砕土の実施や、適度な土壌水分管理が重要です。詳細は、栃木県農作物等病害虫雑草防除指針の技術情報を御確認ください。
- ・ いちごは親株と本ぼの管理作業が重なる時期です。本ぼで薬剤抵抗性を発達させたハダニ類を親株に持ち込まないために、本ぼ作業後に親株の管理作業を行わないようにしましょう。

(2) 水稲 イネカメムシ

- ・ 越冬量は県南部では昨年よりやや少なかった一方、県中部では多かったため、今年の水稲での被害が懸念されます。
- ・ 越冬確認地域：出穂期と7～10日後の2回防除を実施しましょう。
- ・ 越冬未確認地域：常発地の県南部では引き続き適期防除を実施し、それ以外の地域では、ほ場巡回し、早期発見・適期防除に努めましょう。
- ・ [植物防疫ニュース No. 16](#)、[栃木県の水稲に発生したイネカメムシに対する薬剤の殺虫効果](#)、[続報](#)を当センターHPに掲載中です。

○ 農薬の安全使用等

(1) 薬剤抵抗性発達の抑制

- ・ 薬剤で防除する際には、RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布しましょう。

(2) 有用生物への影響に留意

- ・ 花粉媒介昆虫（ミツバチ、マルハナバチ）や天敵に対する影響日数に注意して薬剤を選択しましょう。

(3) 農薬適正使用の徹底

- ・ 農薬は適正に保管・管理しましょう。
- ・ 農薬を使用する際は、容器のラベルに記載された内容を遵守し、農薬による事故等の発生を防ぎましょう。
- ・ 薬剤散布の後には必ず作業内容を記録し、防除履歴を作成しましょう。

○ 1か月気象予報（予報期間：5月23日～6月22日 5月21日 気象庁 発表）

- ・ 期間の前半は、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）

項目	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	10	30	60
降水量	20	30	50
日照時間	40	40	20

○ お問い合わせ等

- ・詳細は農業総合研究センター環境技術指導部防除課（TEL 028-665-1244）までお問合せください。
- ・病虫害情報発表のお知らせは、[X「栃木県農政部\(@tochigi_nousei\)」](#)、[農業総合研究センターHP（https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html）](https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html)でも御確認いただけます。
- ・[カメムシ防除作戦HP（https://www.pref.tochigi.lg.jp/g05/kamemushi.html）](https://www.pref.tochigi.lg.jp/g05/kamemushi.html)も御確認ください。



X「栃木県農政部」



農業総合研究 HP



カメムシ防除作戦 HP